



スリランカの仏教が減びてしまう！

2014年12月15日

須賀 努 (文と写真)



▲世界的に有名なヌワラエリアの茶畑

バングラデシュのイスラムについて書いたついでにスリランカについても述べてみたい。スリランカは人口2000万人の小さな島国。島国同士のせい、元々の仏教繋りのせい、親日度の高い国である。長年イギリスの支配が続いたこともあり、素晴らしい紅茶が取れることでも有名だ。2009年に26年間続いた内戦がようやく終結し、まさに80年代初頭の中国のように改革開放政策を進めようとしている。

そして急速な経済発展を模索する政府に対して、中国は巨額の経済援助を打ち出し、橋や道路から空港まで、スリランカ政府が望むインフラの整備を推し進めている。従来はODAの支援トップは日本だったが、あっという間に水をあけられている。中国の狙いはこの小さな島国ではなく、対インド政策の一環であることは周知のことである。歴史的な領土問題を抱え、そして何よりも中国が苦手なインドを取り囲む、パキスタンは中国の友好国であり、ミャンマーを押さえに行ったのも、資源確保と同時にインド包囲網の狙いがあつたはずだ。

◀コロomboの主要道路

そのスリランカは誰もが認める仏教徒の国。人口の70%を占めるシンハラ人は敬虔な仏教徒であり、インドで仏教が減んだのちは世界の仏教の中心地、古い經典などを保有する、有数の仏教国である。スリランカへ行く飛行機の中でもミャンマーのお坊さんに出会ったが、スリランカの仏教を勉強に行く、と言っていた。今でも世界中の仏教僧、信者が訪れ、学ぶ。その仏教国に今異変が起きている。

アジアから見る日中/最近の10記事



スリランカの仏教が減びてしまう！
2014/12/15



バングラデシュに見るイスラム
2014/12/02



カンボジア 世界一持続可能な村へ
2014/11/14



カンボジア/ボランティアではなくビジネスを
2014/10/27



インド人がヨガを始めた——心の安定とは
2014/10/03



インド人が紅茶を飲み始めた——人間の欲望とは
2014/09/13



インドで最高の死に方を考える
2014/09/01



少女の言葉から日本人が忘れていたものを思い出す
2014/08/12



インドで資本主義の本質を見る
2014/07/29

すべてのカテゴリー/最近の10記事



スリランカの仏教が減びてしまう！
2014/12/15



アジア諸国の伝統文化、伝統民族音楽が危機に瀕している？ その3
2014/12/8



いた。

ある若い僧が嘆く。「我が国は中国の援助で発展しているが、国民の暮らしはどんどん疲弊している。一部の特権階級だけが富を得て、庶民は税金や賄賂で搾り取られるだけ。内戦が終わっても苦しみからは一向に解放されていない」と。また「日本のODAは地元民を労働者として雇い、地元雇用が生まれるが、中国のやり方は労働者まで中国から連れてきて、突貫工事で完成させる。確かにインフラは残るが、その安全性は確保されていないし、地元にとってメリットは少ない」と日本の手法を支持して

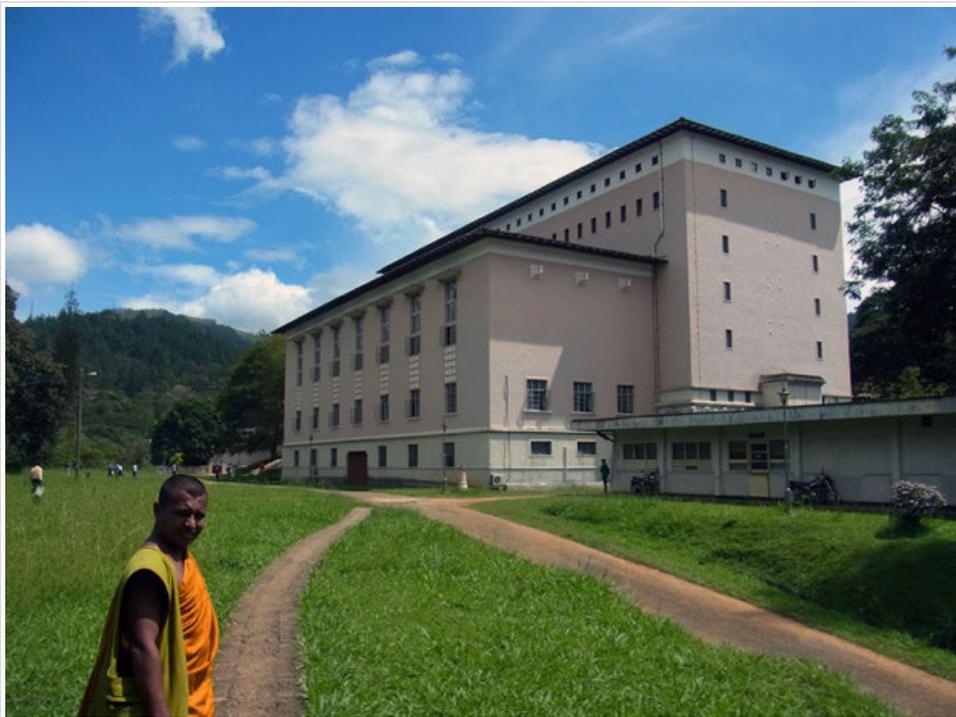


られる地域、河南省や湖南省などの人々が多かった。

◀中国からの出稼ぎ労働者

実際に筆者がバンコックから乗ったフライトには大勢の中国人が乗っていた。その中にはどう見ても観光客とは思えない男性の団がいて、近寄りたがたい存在だった。その人々がスリランカへ出稼ぎに行く中国人だと分かったのは、帰りに空港で話し掛けたからなのだが、中国のODAは本当に地元民を使わないのだ、ということを実感した。因みに中国人労働者は中国全土から集められており、比較的貧しいと言

「中国のなりふり構わぬ経済攻勢」「金で横っ面を張る暴力体質」など、仏をも恐れない所業は、仏教徒スリランカ人を慄かせている。ある意味で信仰心の無くなった中国人だからこそ、出来る技ではないか、と思うことさえある。これに対して仏教はどんな対抗手段を持ち得るのだろうか。



▲スリランカ1の大学を案内してくれた若い僧

そしてもう一つ、スリランカにとって脅威となっていることがあるという。それはズバリ、イスラム勢力の進攻だ。進攻と言っても中国のような暴力的な経済支援とは根本的に異なり、完全に経済的な投資から始まっている。現在スリランカの最大都市コロンボを中心に巨大なショッピングモールが次々に建設されているが、その多くは中東資本だと言われている。



バングラデシュに見るイスラム
2014/12/2



英国で進行中の通貨改革の取り組み
2014/12/1



アジア諸国の伝統文化、伝統民族音楽が危機に瀕している？ その2
2014/11/25



社会的連帯経済国際リーディングチーム第1回
会合
2014/11/16



カンボジア 世界一持続可能な村へ
2014/11/14



アジア諸国の伝統文化、伝統民族音楽が危機に瀕している？ その1
2014/11/8



中国人（漢人）の必読書——『墓標なき草原』
中国語版序文
2014/11/6



東北の旧市街地をめぐる旅 ③大連
2014/11/3

ショッピングモールが出来れば当然地元の人間を雇用する。特に売り子として若い女性が多く採用される。実はスリランカは内戦の後遺症で、若い男性が戦死しており、非常に少ない。筆者がある男女共学の大学を訪れるとそのキャンパスはまるで女子大のように女子ばかりが目立っていた。高学歴の女子は結婚相手が見付からず、普通の学歴の子たちは、この中東の商人たちから「第2、第3夫人」の誘いを受けているのだという。これもイスラムの侵略というより、「第4夫人まで認められているのは戦争寡婦の救済目的」であるとすれば、ごく普通の行動かもしれない。そして結婚相手もなく、経済的にも恵まれない女性たちはその誘いを受け入れ始めてるらしい。



▲檀家の法事に参加する僧侶

イスラム教徒と結婚すれば、仏教徒でもイスラム教への改宗が義務付けられており、そこから生まれた子はアラーの思召しにより生まれたことになる。イスラム教徒はどんどん増え、仏教徒はどんどん減る、という構図が浮かび上がってくる。勿論イスラム側が意図的に仕組んでいる訳ではないのかもしれないが、結果的には「100年後にはスリランカの仏教は滅びる」と言い出す者も出て来る。

勿論内戦により若い男子が少ないこと、また経済が発展する過程においては、僧侶のなり手も減ってきている。前述の若い僧はととも優秀だが、「日本と違って僧侶は戒律により、結婚して子供を設けることはできない」のであり、仏教界の人材不足による、また後継不足による衰退も現実味を帯びてきている。何より、優秀で金のある者は海外移住し、また出稼ぎに出てしまい、島には残らない、というスリランカ全体の問題も大きい。



◀中東資本になっていたキャンディの茶工場

イスラム教とは、単なる宗教ではなく、生活規範、生活そのものであるとも言われている。イスラム教の六信、「アラー、天使、啓典、預言者、来世、運命」の6つを信仰することだと聞くが、我々のように宗教を学んでこなかった日本人には今ひとつピンとこない。「信じれば救われる」というレベルではない。前述の若い僧に「日本にはイスラム教徒はどのくらいの数、いるのか？」と聞かれたが、そんなことは考えたこともなく、全く答えられなかった。中東や中央アジアから日本にやって来たごく一部の人だけがイスラム教徒だと思い込んでいるが、実は日本人の中にもイスラムを信仰する人が出てきているのかもしれない。



Older post in same category

[Bangladesh Islam](#)